

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-6  
再生可能エネルギーの利活用の推進

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 経営課長 永岡伸善・施設課長 上田章 電話番号 0852-22-6645、6642

事務事業の名称	県営電気事業	
目的	(1) 対象	県民
	(2) 意図	枯渇のない地域資源を活用した再生可能エネルギーによる電気の安定供給に努めるとともに、地球環境保全にも寄与する。
事業概要	①電力の安定供給 地域資源を活用した再生可能エネルギーによる電気を安定供給するため、発電施設の効率的な運転と適切な維持管理の実施。 ②地球環境への貢献 再生可能エネルギーを利用した発電に取り組み、二酸化炭素排出量の削減による地球環境の保全に寄与する。 ③地域社会への貢献 これまで培った知識や経験を生かし、技術支援など県全体の地域振興へ活用する。	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	再生可能エネルギーで発電した供給電力量	目標値	167,032.0	138,769.0	134,125.0	86,225.0	84,726.0	MWh
	式・定義	水力・風力・太陽光発電による年間供給電力量の合計値	取組目標値						
			実績値	135,202.0	155,082.0	162,198.0			
			達成率	81.0	111.8	121.0	-	-	%
2	指標名	再生可能エネルギーを利用した発電によるCO2削減量	目標値				60,900.0	59,800.0	トン
	式・定義	温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度における係数より算出 CO2排出係数=0.000706 t-CO2/kWh	取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	3,602,323	7,789,837
うち一般財源 (千円)	0	0

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

企業局が管理する発電施設 水力発電所：13発電所（供給電力量 118,626Mwh） 風力発電所：2発電所（供給電力量 35,386Mwh） 太陽光発電所：4発電所（供給電力量 8,186Mwh） 合計：19発電所（供給電力量 162,198Mwh）	過去の実績とリニューアル工事のスケジュール等から当該年度に供給可能な量として算出した目標値に対して、発電施設の効率的な運転と適切な維持管理に努めた結果、実供給電力量は満足出来る数値を残している。
---	---

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

江津高野山風力発電所については、メンテナンス委託業者技術員の現地常駐化や、交換部品の確保、また夏場の風が弱い時期に集中して部品の交換や予防保全工事を行った結果、年間を通じて安定した運転を行うことができ、初めて目標の達成率が100%を超えることができた。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- 風力発電のうち隠岐大峯山風力発電については供給電力量の目標達成率が100%に達していない。（隠岐大峯山 実績/目標：82.7%）
  - 既存の水力発電所については、経年劣化による故障や動作不良等のトラブルも多く発生している。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- 大峯山風力発電所は、平成16年2月に運転を開始してから14年が経過し老朽化が進んでいることから、今までとは異なる新たな故障が発生しており、海外からの部品の調達に時間を要し故障復旧に時間を要している。また、大峯山風力発電所は離島の隠岐島に設置しており、故障復旧時は本土からの移動に時間を要している。
  - 既存の水力発電所の多くは運転開始から60年以上経過し、経年劣化がトラブルの原因となっている。
- ③原因を解消するための「課題」
- 大峯山風力発電所では、交換する部品が高額な機器もあり、限られた予算の中で必要となる部品の見極めを行い、故障部品の早期交換を図るため現地に部品を配備（ストック）する。
  - 水力発電所では、その改修に当たり巨額の投資が必要となってくる。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

大峯山風力発電所の定期点検結果や、これまでの故障履歴の精査により、今後必要な交換部品の優先性を決定し、予め部品を確保することで故障時間の短縮に努める。また、故障発生により修理費用が高額となる場合には、FIT契約期間における収支見通しを立て、修理の内容について検討する。

老朽化した水力発電施設においては、今後も安定した発電が可能となるよう、順次リニューアル（再整備）を行う。